

令和元年度 第3回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

令和元年12月3日(木) 13時30分～15時00分

2 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・台風19号による東信地区の被災によって、出材量が落ち込み、特に合板工場は不足を訴えている。北信管内も土砂崩れがあったが、林道の回復が早く、11月から出材できている。
- ・集材していた材が水害を受けた影響で、本来ならば冬期のために12月までに適正在庫の1.5倍程度蓄える必要があるところ、半分しか確保できていない。
- ・木曽では国有林材が順調に出ている。ただし、消費税の駆け込み需要や台風被害などで周囲の市場のバランスが崩れており、相場には変化があった。山からの出材減で需給バランスが崩れ、木材価格は平均的に上がってきている。通常は建築のピークが10月だが、今年は11月だった。プレカットの被災などにより、受注残があるため冬期が心配。
- ・愛知県では台風の被害があまりなかったため、生産量はあまり変わっていない。
- ・富山県では、冬期は事業を行わずまた主伐もしていなかったが、補正予算で冬期の仕事や主伐を手当するよう進めている。
- ・良材の需要がなくなってきており、特に通し柱や長柱、太角の柱の需要がない。
- ・東濃中濃の出材量は例年より少ない。特にヒノキが手に入りにくい。
- ・気温が高いためか、11月に入っても材の皮が剥けたり虫食いの丸太が見受けられる。